

京商 130 年の知恵と活力を発信

～「内需型モデル都市・京都」を実現～

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

円高やデフレ経済の長期化、世界経済の先行き不安などにより、不透明感が色濃い経済環境の中、新年を迎えることとなりました。震災からの復興需要がわが国の景気を支え、持続的な景気回復・財政再建への足固めとなる 1 年となることを期待しています。

今回の東日本大震災を契機として、自然災害リスクを考慮した東京一極集中の国や社会制度のあり方、原子力中心のエネルギー政策、産業構造、人々の価値観などが大きく変化しようとしています。今後は環境や資源エネルギー、安心・安全、健康・医療、食糧、教育などに関する新しいニーズがより一層顕在化するでしょう。これらを取り込み、地域の新たな成長へつなげるために、中小企業が自らの強みであるニーズの変化への大胆かつ柔軟な対応力を発揮することが必要です。

本所は「知恵産業のまち・京都の推進」を通じて、地域経済や雇用促進に貢献する小さくともキラリと光る内需型の中小企業を数多く誘発させ、地産地消の「内需型モデル都市・京都」を実現したいと考えています。新しいニーズを捉え、新たな顧客創造を実現した内需型企業は、真にグローバルな世界市場においても、高付加価値の製品・サービスの提供を通じ、自律的な成長を遂げることは間違いなく、京都にはそのポテンシャルがあると信じて疑いません。

本年10月、本所は明治15年の設立から130年の節目を迎えます。先達のご功績に改めて敬意を表したいと思います。さまざまな記念事業を通じて、本所および京都の軌跡を振り返りながら、これからの商工会議所、京都の進むべき方向性を明らかにするとともに、京都内外の皆さまに京都産業の強みや知恵を知っていただく機会を提供したいと考えています。本所の役員・議員・職員が総力を挙げて取り組みますので、ぜひご期待ください。130周年事業を契機として、会員をはじめ、京都府市民の経済活動や生活文化の向上に寄与する事業を展開し、未来の創造に向けた、地域、産業の20年、30年先のビジョンを共有することができれば幸いです。

今年の干支は、「辰」。本年が皆さまにとって、昇り龍のように勢いのある年となることを祈念いたしますとともに、本所への一層のご理解とご協力をお願い申し上げ、新年のあいさつといたします。

以上

京都商工会議所
会頭 立石義雄